

2016年7月31日

福音書からのメッセージ

そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」
(ルカによる福音書 12章 15節)

イエス様は一つのたとえを語られました。ある金持ちの畑が豊作だったそうです。彼はその作物をしまっておくために、新しい倉を建てることにします。このとき彼の頭からは、隣人の存在も、神さまのこともすっかり消えてしまっていました。

周りにいる人たちの中には、奴隷もいたでしょうし、その日食べるものにも困っていた人たちも多くいたでしょう。そのような人たちのことが、彼の頭の中にも、心の中にも、まったく出てきません。そして神さまのことも消えてしまっています。神さまの祝福を得たということに対する感謝も何もないのです。

なぜそこまで言えるのかといいますと、わたしたちが使う新共同訳聖書では訳されていない「わたしの」という言葉が、原文のギリシア語ではとても強調されているからです。

「どうしよう。【わたしの】作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、やがて言った。『こうしよう。【わたしの】倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに【わたしの】穀物や財産をみなしまい、こう【わたしの】魂に言ってやるのだ。』」

すべてが、「わたしの」なのです。すべて神さまの恵みを受けていただいたものなのに、彼は「わたしの」ものだと考え、魂さえも、「わたしの」ものだと思ってしまう。そしてすべてを、自分のためだけに用いようとしたのです。

貪欲とは欲深く、欲望に任せて物事に執



着し、むさぼることです。この金持ちの男の行為こそ貪欲なのだと、イエス様は告げられたのです。

この金持ちの命は取り上げられます。この「取り上げられる」という言葉も、直訳にすると「返還請求される」という意味です。もう返せ、神さまからそう言われるのです。彼の魂は、彼の物ではなく、神さまのものだからです。

わたしたちは、この金持ちの男の出来事を聞いて、どう感じるでしょうか。バカな男だと笑っていられるでしょうか。わたしたちはたくさんの物を持っています。財産、食べ物、肉体、それらは誰のものなのでしょう。自分の力だけで手に入れた物ですか。それとも神さまが祝福のうちに与えてくださったものですか。

神さまからいただいたものは、お金や物だけではありません。わたしたちは一人ひとり、たくさんの賜物をいただいています。でもそれを、「わたしの」、「わたしの」と言って隠してしまったり、自分のためにだけ用いようとしたりするのでしょうか。

貪欲は、わたしたちに一番身近な罪なのかもしれません。しかしわたしたちはすべてを捨てて十字架に向かわれたイエス様を知っています。イエス様に倣い、少しでも多く神さまのために自らを用いてもらえるように祈り求めていきましょう。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>